

# 若手職員検討チームの活動報告

## ～土地改良区の業務を学ぶ～

---

筑後川下流右岸農地防災事業所

若手職員検討チーム



# 土地改良区とは？

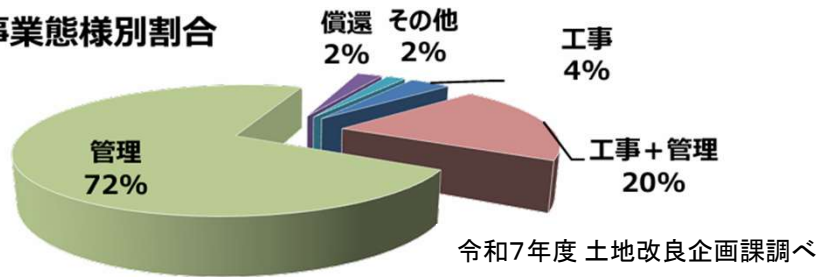
## 土地改良区とは・・・

土地改良法に基づき、地域の農業者等により設立される団体で、農地に必要な水を供給する事業や農地を整備する事業（土地改良事業）を行っている団体。

## 土地改良事業とは・・・

農業用の用水路や排水路の新設や農地の整備等の工事を伴う事業、またはそれらによって造成された施設の維持管理を行うこと。

土地改良区の事業態様別割合



★詳しくはこちらから

農林水産省HP [dantaisidou\\_riyouchousei-121.pdf](#)

農林水産省Webマガジン「aff」2025年7月号 [農業の発展にかかせない土地改良区：農林水産省](#)

# 土地改良区との意見交換会

国営事業で整備した施設の維持管理を行っている土地改良区が日々、具体的にどのような業務を行い、どのような課題を抱えているのか学びたいと考え、事業実施地区内にある土地改良区のうち、下記の3つの土地改良区と意見交換を行った。

## ＜今回意見交換を行った3つの土地改良区＞

佐賀市土地改良区  
佐賀東部土地改良区



当事業で整備しているクリークの維持管理を担っている

佐賀土地改良区



規模が大きく、様々な取り組みを行っている

当事業所からは若手職員4名ずつ、  
各土地改良区からは、管理課の中堅職員に出席していただいた。



# 佐賀市土地改良区について

---

### ・水路の浚渫について

水路の浚渫に使える事業メニューが少なく、事業費の制限もあり、補助金の活用が難しい。年2回ほどしか実施できていない。

#### 浚渫した堆積土の処分も課題

現状、地元の空いている土地に仮置き、造成地に渡したりしている→運搬距離があり負担もとは農地の土だが、水路の水が汚く、pHやごみなどの問題から、泥土をほ場にもまけない。

### ・事前排水後の水の充足について

農家さんは水を「買っている」という意識が強く、事前排水することをよく思わない人もいる。事前排水後、雨が予報より降らなかった場合が問題で、早く水を充足するかが重要だが、水利権の制約で思うように充足されないことがある。

### ・賦課金について

賦課金の金額は総代会で設定しており、各地区1,000円～1,500円。  
この金額は十数年変わらないが、修繕費は倍になっており、施設の補修が十分にできない。  
ほかにも土地改良区の人手不足やICT技術の導入など課題  
→人件費や導入費は賦課金で賄われるため、農家さんの負担増に直結するため、難しい。

- ・ポンプ小屋の中にホームレスが住んでいた等、管理している人しかできない話を聞いて面白かった。

- ・農家さんからは農地基盤関係で困ったことがあった際に連絡がくるため、農家さんにとってはお悩み相談室のような場所。

佐賀市土地改良区としては、農家さんにとって頼れる土地改良区でありたいと思っているとのこと。

- ・工事を行う際の借地で拒否される方の対応について、改良区の担当者は笑って話していたが非常に苦労されているんだらうというのが伝わってきた。

- ・組合員数の減少で維持管理費のやりくりが将来難しくなりそうな地区や、樋門の操作が繊細なため勝手に触ることができない場所があったり、地元農家と向き合っているからこそわかることが多いことを知れた。



# 佐賀東部土地改良区について

---

### ・職員数の不足

大雨が降った際の排水は現場係2人で、数十個の樋門を数時間で空けなければならない。操作する樋門やゲートの開閉具合は経験に頼るところが多く、3～5年経験を積まないといけない。20名くらいが理想だが、賦課金が上がらない限り難しい。

### ・大雨特別警報発令時の事前排水

神崎市からの事前排水指示に基づき大雨特別警報が出る可能性が高まれば事前排水を実施  
関係市町村が多く、足並みがそろわず、各自治体で事前排水の予算がついていない。

→事前排水に係る費用はすべて土地改良区負担となっている。

そもそも治水は管轄外の作業になるので、万一作業中に事故が起こったら労災がおりない。

(防災のために事前排水を行うのだから、市町村も費用負担してほしい、農家の負担なのはおかしい)

### ・遠隔操作可能な水門の導入

大雨の排水時、昼夜問わず、時には雷の中、樋門の操作を行っている。

→農地・道路の境界がわかりづらく、非常に危険

ICTの樋門を導入すると、多額の費用がかかる。

現在、1箇所実証実験で遠隔操作できる樋門を導入している。

- ・対応してくれた職員の「生まれ育った地元の農地を守りたい、農家の所得を増やしたい」という熱い思い

- ・実際に遠隔操作できるゲートを見せていただいた。  
人手不足かつ悪天候の中での樋門の操作は命の危険も伴う作業であり、導入は土地改良区の職員の負担を大きく軽減できるが、またしても金銭面に高いハードルがあることがわかり、もどかしく感じた。

- ・土地改良区の職員は「問題が発生しないよう未然に防ぐ」ことに心血を注いでいる。  
これまで土地改良区の方々の見えない努力がたくさんあって農地やクリークが維持されてきたのだと感じた。



# 佐賀土地改良区について

### ・農家の後継者不足

→佐賀の水の流れを理解してもらおうと、歴史の探検隊という活動を行っている  
標語の募集、スケッチ大会等も行い、広報に力を入れている。



### ・維持管理の苦悩

→管理している水路は用排兼用の路線もあり、土砂が流入、すぐに沈砂池がいっぱいに  
対策として、毎年200万円かけて浚渫を行っている。

→河川を利用している区間（石井樋から取水している区間）には、  
水草が繁茂しており、処理に非常に苦慮。

→クレークや水路にゴミが捨てられるため、除塵機やスクリーンの邪魔に。

→北山ダムに計画の2, 3倍多く堆積土がたまっている

また、耐用年数が迫ってきている（80年に対して現在68年）



### ・周辺環境の変化

→最近では計画以上の雨が降ることも多く、予測が難しい

→干ばつを経験した農家さんは水のありがたみを理解してもらえているが、  
近年は分からない人が増えている部分もある。

→ICTなどの新しい技術を導入するとなれば、賦課金の増額に直結するため、  
新技術の導入等は、現在は考えていない。



### ・維持管理の大変さ

→ダム、頭首工は、常に24時間体制で監視、管理を行っている。

水路は、ゲート・分水工操作を行っており、夏の間は一日中外回り（分水工は、地区内に約180地点）。

→大雨では、ローテーションを組んで緊急時に備えたり、

地震では、震度4以上で目視点検を行い、1時間以内に農林水産省に報告している（北山ダム）。

### ・やりがい

→「水が流れていることが当たり前なので、基本褒められることがあまりないが、

水が足りない地区に水が流れて、無事に稲の収穫を迎えられると安心する。」と話してくれた。

もっとありがたみを分かってくれる人が増えればいいなと思った。

### ・組織内のこと

→3～4年程度で部署移動があり、どこへ行くは分からない。

そのなかでも、賦課金の徴収を行う部署が一番大変…

→週休2日制でシフト制。

大雨や地震など突発対応を除けば、残業なしでかなり働きやすい。

# まとめ

- ・土地改良区との意見交換を通して、マンパワーや財源に限りがあるなか、施設の維持管理に非常に苦勞をされていることを学んだ。
- ・どの土地改良区の方も、多くの人に水路に水が流れていて当たり前とされていることが多く、感謝の言葉を言われたことがないとおっしゃっていた。  
ちょっとした雨でも冠水することが多かった佐賀平野で、ほとんど冠水しなくなったのはクレークの整備だけではなく、土地改良区が適切に農業水利施設を維持管理しているからだ実感した。
- ・土地改良区の予算（収入）について、国や県からの補助金が予算全体の2割を占めており、改良区が活動するうえで非常に重要な役割を持っていると感じた。  
改良区が今後より活動しやすくなるよう、補助事業の拡充や適用工種の追加、実施要件の緩和などを行う必要があると感じた。
- ・今後も、意見交換などを通して、様々な視点をもって業務に取り組みたい。